

## 米沢有為会#文化大学 第37回 (平成6年度第2回)

令和6年12月15日(日)15時から

# 転機を迎えた 米沢有為会の育英事業

公益社団法人米沢有為会代表理事・会長

平 山 英 三

1

## はじめに 自己紹介

- 昭和21(1946)年4月 米沢市生まれ
- 県立米沢興譲館高校卒業 東北大学法学部卒業
- 昭和45(1970)年4月 人事院採用  
(大蔵省主計局、総理府人事局出向)
- 平成13(2001)年1月 人事院総務局長  
平成16(2004)1月 退職
  - ・平成13(2001)年7月～ 米沢有為会理事
- 平成16(2004)年2月 国家公務員共済組合連合会常務理事  
平成20(2008)年3月 退職
- 令和3(2020)年6月～現在 米沢有為会代表理事・会長

3

## 転機を迎えた米沢有為会の育英事業

### レジュメ

- |   |  |
|---|--|
| はじめに 自己紹介   | 7 奨学金訴訟の経緯   |
| 1 有為会の歩み  | 8 給費型奨学金への移行検討   |
| 2 学生寄宿舍の運営  | 9 公益法人制度改革   |
| 3 東京寮女子学生受入れ検討  | 10 米沢有為会の財政状況 <ul style="list-style-type: none"><li>・米沢有為会の不動産</li></ul>   |
| 4 学生寮運営の問題 <ul style="list-style-type: none"><li>・新規入寮者の推移</li></ul>  | 11 今後の方策 <ul style="list-style-type: none"><li>・東京寮の築58年問題対策</li><li>・もし東京興譲館を売却したら</li><li>・奨学金大型寄附の例(置賜関係)</li></ul> |
| 5 奨学金貸費制度 <ul style="list-style-type: none"><li>・奨学資金の拠出(戦前)</li><li>・奨学資金の拠出(戦後)</li><li>・奨学生応募の推移</li></ul> | むすびに   |
| 6 奨学金返済遅延の問題  |  |

2

## 1 有為会の歩み

- 伊東忠太氏(後に米沢名誉市民)ら6名の在京学生が「有為会」を創立  
明治22(1889)年11月23日 明治25(1892)年 米沢有為会と改称
- 明治31(1898)年から会長制、明治41(1908)年上杉憲章伯爵総裁推戴
- 明治41(1908)年 社団法人認可、育英団体として再発足
- 明治42(1909)年 学生寄宿舍・東京興譲館を小石川に開設  
大正3(1914)年 学生寄宿舍・仙台興譲館を開設
- 明治44(1911)年 奨学金貸与制度発足
- 昭和23(1948)～24(1949)年 東京・仙台的興譲館寮を戦後再建
- 平成4(1992)年 我妻榮記念館を開館(郷土出身民法学者の生家の公開)
- 置賜3市5町の文化、教育、産業の振興(表彰など)
- 平成25(2013)年 公益社団法人に移行(新公益法人制度改革に伴う)

4

## 2 学生寄宿舍(育英寮)

- 東京興讓館寮 明治42(1909)年1月小石川表町に開設37名  
昭和9(1934)年10月西大久保移転  
昭和20(1945)年4月空襲で焼失 昭和24(1949)年10月再建  
昭和41(1966)年11月調布市入間町移転48名(二人部屋) 現定員24名(個室)
- 仙台興讓館寮 大正3(1914)年片平丁に開設  
大正14(1925)年角五郎丁一丁目移転 昭和20(1945)年4月空襲で焼失  
昭和23(1948)年再建18名 昭和62(1967)年角五郎二丁目移転 現定員16名(個室)
- 札幌興讓館寮 昭和5(1930)年6月北大敷地(国有地)に開設 戦災受けず  
昭和42(1967)年増改築17名 昭和63(1988)年閉寮
- 山形興讓館寮 昭和30(1955)年8月山形市薬師町長谷川外科跡に開設  
昭和37(1962)年7月閉寮

5

## 3 東京興讓館女子学生受入れ検討

### 創立130周年活動ビジョン5か年計画の一つ

- (1) 学生寮基本問題検討委員会の設立
- (2) 首都圏の男女共住学生寮を訪問調査  
自主運営寮なし 運営の責任体制(舎監、寮母の男女常駐)  
人件費捻出のため100人規模が必要(少ないところは公的補助)
- (3) 自主運営でも責任体制を補完できないかを追求  
監視カメラ、居住区仕分け、カード認証システム
- (4) なんとか実現を目指したが合意に至らず検討を断念

6

## 4 学生寮運営の課題

**学生寮運営の問題点** 東京寮定員24名で10名 仙台寮定員15名で7名  
入寮希望者の急激な減少で 経営困難に

- (1) 少子化を背景に集団生活の忌避傾向  
親は食事つき寮を歓迎だが 子はバイトで賄い付
- (2) 東京寮の立地条件 エ場等制限法廃止により大学キャンパス都心部回帰  
仙川駅から徒歩13分は少し遠くて敬遠されているのか
- (3) 築58年の東京寮の建物劣化の状況 改修費用も増加
- (4) 募集の努力 高校の保護者進学説明会に理事派遣  
口コミ 各種広告 寮生活の動画をYouTubeに 地元ケーブルテレビ放映
- (5) 不足運営費の補填 寮費値上げ 月5万円→6.5万円  
補助額 令和3年度132万円 令和4年度251万円 令和5年度380万円

7

### ※ 学生寮新規入寮者の推移

注: 網掛けは少ない年度

年度	平20	平21	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28
東京寮	5	9	5	4	5	6	9	7	5
仙台寮	5	4	2	2	2	10	0	4	6

年度	平29	平30	平元	令2	令3	令4	令5	令6
東京寮	8	7	0	10	6	2	2	1
仙台寮	4	1	0	2	1	2	2	3

8

## 5 奨学金貸費制度

- ・ 明治44(1911)年に開始 昭和14(1939)年～昭和27(1952)年中断  
昭和28(1953)年再開 平成16(2004)年度貸与生まで総数224名
- ・ 現在の位置付 日本学生支援機構(旧日本育英会)の補完的機能
- ・ 令和2(2020)年度から I 型:女子住宅費支援(2万円)、  
II 型:地元定着支援(半額返済免除)、III 型:従来型 の3類型で実施
- ・ 奨学金返済の遅延とその解消(▶別項6で)
- ・ 規則通り毎月返済に戻す
- ・ ゆうちよ銀行の自動引き落としの利用  
ダイメリットも:毎月手続きで手間が大変  
残高不足はその月処理できず翌月まで個別に連絡し、別途処理必要
- ・ このままでは継続できないのでは 返済業務の外注が必要か

9

## ※ 奨学資金の拠出 (戦前)

旧定款の規定に見る拠出(今は基金なく削除)

第39条 この法人に基本財産として教育基金を置く。

2 教育基金は、次のものからなる。

- ① 元米沢尋常中学興譲館財団及び株式会社米沢義社より教育財団興譲館に寄附されたものでこの法人に帰属した財産
- ② 元上杉伯爵家及び元米沢藩人その他有志の醸金にして財団法人米沢教育会に属し更にこの法人に帰属した財産
- ③ 教育基金として繰入れられた財産
- ④ 椿宮太郎氏から奨学資金として寄附された金壹万円
- ⑤ 浜田五左衛門氏から奨学資金として寄附された金壹万円
- ⑥ 高野源五郎氏から奨学資金として寄附された金壹万円
- ⑦ 有限会社猪股絹織工場代表取締役猪股政次郎氏から奨学資金として寄附された金壹万円

10

## ※ 奨学資金の拠出 (戦後)

現奨学基金の寄附(昭和28～平成16)

基金名称	現在額	年度
大滝龍五郎氏奨学基金	150万円* <sup>1</sup>	昭和28
近新三郎氏奨学基金	15万円	昭和30
小野茂平氏奨学基金	100万円	同
70周年記念奨学基金	70万円	昭和34
川村亮蔵氏奨学基金	50万円	昭和36
山崎秀雄氏奨学基金	50万円	昭和38
旧貸費生有志奨学基金	15万円* <sup>2</sup>	同
村山義路氏奨学基金	20万円	昭和41
前山峯吉氏奨学基金	50万円	同
秋山武三郎氏奨学基金	50万円* <sup>3</sup>	昭和44
山口長次郎氏奨学基金	170万円* <sup>4</sup>	同
高梨湛氏奨学基金	10万円	昭和45
加瀬清雄氏奨学基金	50万円	昭和46
大熊こう氏奨学基金	50万円	昭和47
丸森道次郎氏奨学基金	50万円	昭和49
川崎勇・艶香氏奨学基金	300万円* <sup>4</sup>	昭和53
大国岩太郎氏奨学基金	105万円	昭和55
90周年記念奨学基金	500万円	同

相田岩夫氏奨学基金	300万円	昭和57
加藤八郎氏奨学基金	200万円	昭和60
高橋与市氏奨学基金	30万円	昭和62
(株)キムラ奨学基金	200万円* <sup>4</sup>	昭和63
100周年記念奨学基金	2715万7525円* <sup>4</sup>	平成元
山口政男氏奨学基金	30万円	平成2
鈴木忠喜氏奨学基金	50万円	平成4
三段崎俊吾氏奨学基金	150万円	平成5
大熊すき氏奨学基金	100万円	同
近野兼史氏奨学基金	50万円	平成8
九里尚知氏奨学基金	100万円	平成9
松田達氏奨学基金	40万円	同
石沢修一氏奨学基金	50万円	平成10
置賜建設(株)奨学基金	100万円	平成14
鈴木章氏奨学基金	100万円	同
斉藤絵画展奨学基金	173万6682円* <sup>5</sup>	平成16

注 \*印:省略

11

## ※ 奨学生応募の推移

年度	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29
奨学生	5	5	3	5	4	5	3

年度	平30	令元	令2	令3	令4	令5	令6
奨学生計	4	2	4	1	1	3	0
I 型	—	—	1	0	0	0	0
II 型	—	—	2	0	1	0	0
III 型	—	—	1	1	0	3	0

注:令和2(2020)年度から、I 型:女子住宅費支援(2万円)、

II 型:地元定着支援(半額返済免除)、III 型:従来型 の3類型で実施

12

## 6 奨学金返済遅延の問題

### 奨学金返済の遅延とその解消

- ・卒業後の非正規就業が増え、生活困難
- ・規則: 毎月返済(月1.5万円) 実際: 年2回返済(9万円)に  
⇒ 返済者の便宜と事務手数を考慮したが、つまずくと遅延に
- ・本人転居で住所不明 連帯保証人(家族)も転居で住所不明  
⇒ 追跡できない 弁護士等に依頼すると費用多額
- ・住民票附表の開示、弁護士でなくとも可能に
- ・回収作業に着手 説得困難だが 訴訟になった例も

13

## 7 奨学金訴訟の概要

- ・返済遅延者本人が行方不明  
親が3回返済した後、親も所在不明になり、返済遅延が発生
- ・住民票附表開示で親(連帯保証人)に連絡できた  
親は4割の返済を約束し、返済実行中
- ・本人の住所がわかり、返済督促したところ時効援用を主張
- ・米沢簡易裁判所に調停申請 先方が調停拒否  
訴えに切り替える ⇒ 一審(米沢簡裁): 時効を認め敗訴
- ・控訴審(山形地裁): 時効を認めず逆転勝訴  
中途退学(廃学)は即時一括返済との規定  
本件時効の始点は廃学を知った時との判断 判決をうけて、返済実行中

14

## 8 給費型奨学金への移行検討

- (1) 財源の確保
- (2) 採否判定の基準の明確化(受益が格段に大きいため)
- (3) 既借入者との均衡(権衡)
- (4) 過去の給費型移行の検討  
公益移行検討時に奨学金制度検討委員会を設置し検討した  
給費型は認定に有利とのうわさ  
奨学生OB・OG会の熱心な推進があった(OB会は、他にも奨学金  
貸与式、奨学生交流の場の設置などを行ったが現在は解散)  
米沢で委員会開催 他団体の寄附募集結果で時期早尚と判断

15

## 9 公益法人制度改革

平成20(2008)年12月

- ・天下り批判を背景に 団体設立と公益認定を分離
- ・主務官庁制を廃し、内閣府の民間有識者の委員会・県等に権限移行
- ・認定基準 (1) 公益性 ①公益目的事業比率  
②収支相償 ③遊休資産の保有制限  
(2) ガバナンス 組織体制 財政基盤
- ・米沢有為会もボランティアの運営から有給の責任体制の整備が課題
- ・このほか反団体の排除措置(理事名簿を警察でチェック)、
- ・理事の連座制(認定を取消された団体の理事がいると認定取り消し)
- ・米沢有為会は平成25(2013)年7月1日公益法人移行登記(6月27日認定)
- ・認定継続にも同様の大量の資料が必要
- ・理事(特に事務局、財務、館長)及び監事の尽力に具体的な感謝を

16

## 10 米沢有為会の財政状況

(令和5年度決算を丸めた数字)

- ・ 予算: 収支予算(6年度から増減予算)
- ・ 決算: 貸借対照表、正味財産増減計算書
- ・ 経常増減の部 収益: 2,000万円 費用: 3,200万円(内 減価償却費: 950万円)  
調整前増減額: 1,243万円 調整: 577万円 当期増減額: △666万円
- ・ 経常外増減の部 指定正味財産増減の部 正味財産期末残高 (省略)
- ・ 費用内訳: 公益目的事業費2,600万円 管理費(法人会計): 600万円  
公益目的事業費率: 81.2%
- ・ 収支相償: 収益-(費用-減価償却)=2,000-(3,200-950)=△250(万円)
- ・ 資産合計: 37,000万円 (内訳: 現金・普通預金730万円  
貸与奨学金4,940万円 金融資産: 5,500万円 不動産: 25,800万円)  
遊休資産保有額: 2,250万円(上限は1年分の公益事業費2,600万円)

17

## ※ 米沢有為会の不動産

(百万円)

名称 所在地	取得時期	土地 (簿価)	建 物			減価償却後	合 計 令和5年度末
			取得価格	改修工事	計		
東京興譲館 調布市	昭和41年	28.3	41.6	81.9	123.5	54.0	82.3
仙台興譲館 仙台市	昭和62年	94.9	80.8	18.4	99.2	34.8	129.7
我妻榮記念館 米沢市	平成3年	34.3	5.2	18.7	23.7	8.6	42.9
合 計	—	157.5	127.6	119.0	246.4	97.4	254.9

注: この他、大江町に山林あり。簿価605千円

18

## 11 今後の方策

- (1) 学生寮存続の方策  
改修、建替、移転 財源は土地建物の売却か  
不動産相場、場合によっては廃寮も視野に
- (2) 奨学金の在り方  
給付型移行の財源の調達 他団体との連携も模索
- (3) 資金調達方法(共通)  
寄附(クラウドファンディング、遺贈寄附等多様化も)  
土地建物売却の可能性(アスベスト) 都県市等の補助金
- (4) 考えられるシナリオは?
- (付) 我妻榮記念館事業の状況

19

## ※ 東京寮築58年問題対策案例

- (1) 現在の建物を大規模改修する(弥縫策)
- (2) 敷地の前か後を売って残地に建てる(建替え)
- (3) 敷地全部売って別地に建てる(移転)
- (4) 敷地全部売って(一棟、部屋)を購入
- (5) 敷地全部売って(一棟、部屋)を賃借
- (6) 敷地全部売って賃借費用を給付(奨学金との区別は)
  - ・ 寮立地: 土地の安いところは学生が来ない
  - ・ 山手線の駅から徒歩10分圏12室ワンルームマンション3.8億円

20

## ※ もし東京興譲館を売却したら

- ・敷地面積1,441㎡(436.6坪) (最新では1,358.54㎡)
- ・敷地奥の上空に東電の高圧線で制限あり 補償が年額169万円
- ・テニスコート跡を一括駐車場として賃貸(営利事業として認定済み)

### <参考>

- \* 簿価2,832.7万円
- \* 調布市の平均地価145.5万円/坪 × 436.6坪 = 63,525万円
- \* 不動産屋評価 更地渡し3~3.6億円 現況渡し2~3億円
- \* 現有建物の解体撤去費(アスベスト込み)5千万円~1億円

21

## ※ 奨学金大型寄附の例 (置賜関係)

- (1) **山口祥二奨学金** 5億円の基金を提供し  
置賜出身大学生毎年3名に在学中月5万円(年額60万円)を給付  
公益財団法人公益推進協会(東京新橋)が受託
- (2) 公益財団法人**近野教育振興会の奨学金事業**を  
公益財団法人イオンワンパーセントクラブに事業承継  
高校生奨学金:置賜の高校生計60名に月額2万円(年額24万円)給付  
大学生奨学金:置賜地方出身者毎年5名に在学中月額5万円(年額60万円)と受験助成金最大10万円、入学一時金一律10万円を給付
- (3) **石山つぎメモリアルファンド** 米沢東高校出身の祖母を記念して  
3代にわたりアメリカから母校に多額の寄附

22

## むすびに

- ・米沢有為会育英事業の二本柱である学生寮運営の継続の可否と給費型奨学金への移行については、育英事業部と理事会を挙げて検討中
- ・できれば6月定時総会までに方向性をお示しできることを目指している
- ・皆様にご理解いただくとともに、ご意見、ご提案をお待ちしています

### 転機を迎えた米沢有為会の育英事業について お聞きいただき、ありがとうございました

これまで米沢有為会を支え発展させてこられた先人、先輩方のご尽力と  
会員の皆様のご理解とご協力に感謝します  
引き続き今後とも、米沢有為会の内外の皆様から  
ご意見等をお寄せいただければ幸いです

23

米沢有為会に関する情報は  
ホームページをご覧ください

スマホでの  
閲覧も便利

## 公益社団法人米沢有為会

お問い合わせ 入会申し込み方法

最新の米沢有為会HPが表示されない場合の対処法

米沢有為会は、山形県置賜地方の奨学育英、産業・文化振興と会員親睦を目的とした出身者、在住者による会員制・公益社団法人で、2019年に創立130周年を迎えました。さらなる当会の公益事業や活動の充実へ向け、新たな会員を募集中です。

HOME

有為会とは 育英・文化事業 会誌・会報 創立130周年事業 会員の広場 アーカイブス 風景写真展 米沢地方情報

育英事業の概要	小論文コンテスト
育英事業の歴史	我妻榮記念館
学生寮紹介と寮生募集要項	文化大学
奨学金貸与生の募集案内	

<http://www.yonezawa-yuukai.org/>

米沢有為会

検索

24